

支部協だより

第82号

発行所
 NTT労組退職者の会
 沖縄県支部協議会
 沖縄県浦添市城間4-35-2
 ☎098-870-7101
 Fax.098-875-7450
 責任者
 黒島善市

新政権に期待する

副会長 本永朝昭

待望の政権交代を勝ち取り、今年には沖縄県の米軍基地問題に大きな前進が見られるであろうと期待している。

ところが最近の政府閣僚の発言に理解しがたい言動が相次いでいる。辺野古に新たな基地は造らせないと訴えて戦った稲嶺進氏が当選したにもかかわらず、平野官房長官は「あまりそのことを斟酌してやらなければいけないという理由はない」と言い放った。

また岡田外相は、普天間飛行場移転の件で、望ましいことではないとした上で、「ほかに選択肢がなければ今のままということもあり得る」と述べ継続使用の可能性に言及した。

これはどういう事か。鳩

山総理は、普天間基地が危険だから移転しようということから出た話なのに、今さら普天間に居座るといふことにはならないとはつきり明言している。総理の見解を否定する閣僚の発言は、いかなるものか。内閣の整合性が問われる。

これまで一生懸命新政権を応援してきたのに、民意をないがしろにする姿勢に疑問を感じる。他人の痛みは百年も我慢しろというとか。痛みを分かち合おうという姿勢はどこにも見当



たらない。これでは旧政権(自民党)と同じではないか。あまりにも温度差がありすぎる、このままだと選挙運動もやる気になれないよ。と、いつてこのまま放置しておけば相手の思うつぼだ。いつまでも負の遺産を引きずる訳にはいくまい。やはり我々の世代で米軍基地問題の解決の道しるべはつけておくべきであろう。戦後六十五年しいたげられた基地被害から解放され、平和で安心した生活環境を取り戻すには今がそのチャンスではないか。

民主党内での政治資金問題でごたごたしているが頼れるのはやはりこの政権しかない。政策を安定軌道にのせるにはしばらく時間を要するであろうが、安定政

権を築くには参議院でも過半数以上制する必要がある。そのためにも参議院選の戦う態勢が急務だ。子や孫達に負の遺産を残さないためにも今一度民意を集め、衆議院選のように沖縄全選挙区を勝ち取り、沖縄県民の意気をしめそうではないか。普天間の県内移設は許してはならない。

普天間の国外・県外移設を求める県民大会に参加しよう!!



来る四月二十五日(日)午後三時から読谷村運動広場

「米軍普天間飛行場の早期閉鎖・返還と県内移設に反対し、国外・県外移設を求める県民大会」が開催される。本大会は、県議会での全会一致の意見書に基づきなされるものであり、与野党の枠組みを超えた、沖縄県民の声を一つにした大会である。ぜひ成功させたいものだ。(駐車場は旧飛行場跡で十二分に確保されているが出来れば相乗りで行こう)

ところで、これまで日本政府は、私たち沖縄県民に対して、差別的政策を執り続けてきたようにしか思えてならない。

なぜなら、去るアジア太平洋戦争では、国体護持の立場から沖縄戦を持久戦に持ち込み、そのため約十数

万人の県民が尊い命を落とした。その後、南西諸島をGHQ(占領軍総司令部)へ引き渡し、日本は敗戦国から独立国として国際舞台へ。一九五三年奄美群島は日本復帰したものの、七二年の沖縄に関しては、核の自由持込を密約しての復帰だ。本土では米軍基地の反対運動の高まりで、基地の維持が困難となった。その間、占領下にあった沖縄では、宜野湾の伊差浜、伊江島その他県内各地で土地闘争が起こるも、銃剣とブルドーザーで土地が奪われた。その結果この小さな沖縄に日本本土の74%の米軍基地が集中し今日に至っている。

なによりも重要なのは、これまで沖縄県民の意思を何一つ聴くこともなく、全体的意向(考え)で決められてきたことだ。これまでも、県議会、衆議院選、名護市長選と県民は、新基地は反対と意思表示をしてきた。今回は与野党、党派を超え自民・公明党も一緒に、県民一丸となった行動です。わかっただけでは何も前進しません。行動しましょう。

会長 黒島善市

石橋みちひろ 沖縄で行動してきました



ぜひがんばって下さい。」その後、沖縄の基地問題や経済の状況について調べてみると、国土の〇・六%

認し、市街地のど真ん中にある普天間の危険さを目で確認したこの沖縄ピースサテージで、私は清元委員長がおっしゃった二つの課題

を、実際に私自身の五官で感じさせていただくことができましたのです。「沖縄の戦後はまだ終わっていない」とよく言われますが、沖縄の現実、言葉では表せないほど厳しいものでした。基地問題への取り組みに、ぜひ皆さんの力を貸して下さい！

石橋みちひろの支援者カードの協力依頼

参院選勝利に向けて、支持者カードの集約に取り組んでいます。返信用封筒(切手不要)に入れて返送をお願いします。

八重山地区協が 定期総会を開催

去る2月7日午後6時半、石垣市内の中華料理店・蓬葉各で現職一人を含む会員23名が出席。定期総会及び新年会を開催。総会には支部協から黒島会長、総支部から執行委員長の濱元盛任氏、副執行委員長の白道直行氏も参加し、会員を激励。垣花格会長から経過報告と活動方針が提案され、今年には行事など含め活発に行

うことを互いに確認し合い、拍手で承認・決定した。役員は左記のとおり新役員体制を確立した。

会長 大島克博
副会長 黒島孝子
事務局長 西銘栄弘
幹事 垣花格・飯田実男
大浜哲夫・大 美鈴
仲間永作

会計監査 知念 睦男
内原美江子

引き続き、新年会の座開きでは、大島新会長の三線などで夜遅くまで賑わった。

二〇〇九年四月以降、沖縄に訪問したのは今回が四度目になります。地方では、一番多い訪問回数だと思えますが、このうちの一回は、六月二二〜二五日の情報労連ピースフォーラムです。全国から集まった情報労連の仲間たちとともにこの平和行動に参加して、沖縄に対する思いが深まったことは言うまでもありません。

二回目の訪問の時、沖縄総支部の演元委員長からいただいた次の言葉が、今も私の心に刻み込まれています。「石橋くん、沖縄の課題は二つ。一つは、米軍基地と平和の問題、もう一つは、地域経済と雇用の問題。この二つの課題を忘れずに、

しかない沖縄に、在日米軍基地の七五%が集中している現実や、県民所得が約二〇九万円で全国最低、失業率は七・五%で全国最悪、有効求人倍率も〇・二八倍で全国最低という、厳しい沖縄の状況をあらためて確認したわけです。

そして、六月には、情報労連が主催した「沖縄ピースサテージ2009」で、全国から集まった仲間たちとともに、一七キロの嘉手納基地周回行動、普天間基地の見学、そして戦跡学習ツアーなどの平和行動に参加させていただきました。嘉手納基地の巨大さを足で実感し、戦闘機の離着陸の爆音のすさまじさを耳で確

退職者共済の見直し及び会則の見直しについて

【退職者共済の見直しについて】

- 一、退職者共済(基本契約)については、新規加入時の預託金五万円の運用益を充当する制度として1986年にスタートし、以来、退職者の会の福祉増進に大きく寄与して24年になります。開始当初の運用率年七%の設定は無理をきたし、2002年には見直しされました。高度経済成長の終焉やバブルの崩壊、低金利(年〇・〇4%)の状況下で運用益が確保できなくなりました。そのため、次のとおり見直し(案)が提起されています。
- 二、新たな施策の考え方(見直し案)
 - ①預託金(5万円)は廃止し、全会員に返還する。
 - ②預託金廃止・返還に伴う不足金の扱いは、NNT労組・情報労連・労連共済本部で協議する。
 - ③預託金廃止に伴い、「入会費5千円」を新たに設定し、新規会員及び既存会員からの提出を求める。(事務処理の簡素化のため、既存会員への5万円の返還金は5万円-5千円=4万5千円が返金される)
 - ④退職者共済のサービス維持のため、NNT労組からの助成金を年1億5千万円増やして、合計毎年四億円とする。
 - ⑤共済サービスは以下のとおり。
古希(七〇歳) 五千円相当の記念品
喜寿(七七歳) 一万円 " "
米寿(八八歳) 五千円 " "
配偶者死亡 一万円 " "
(現行サービスの内訳については、会員手帳の10頁下欄に載っています。)
 - ⑥実施時期：2010年1月1日を予定する。

提案内容についての沖縄県支部協の意見

- ①総体的に認める。
- ②サービスで配偶者死亡への弔慰金があるなら本人死亡も存続させて欲しい。

【会則の見直しについて】

- ①第三条(活動)の項目
 - (ア) NNT労働組合と協力して活動を行うことを明確化
 - (イ) 反戦平和・政治活動等の文章追加
 - ②第六条に会員資格の喪失の項目を追加する。
 - (ア) 原則二年間(支部協の)会費を納入しない者は、会員資格を喪失することとします。(沖縄県支部協は、既に「規約」で決定済みです)
 - (イ) 行方不明者については預託金を含め労連共済で管理します。管理する期間は、(?)年間を限度とし、その後、中央協の一般会計に繰り入れます。
- (沖縄県支部協の意見)
- ①会員資格の喪失の項に「任意脱会者の再加入は認めないこととする」を提案しました。
 - ②その他については、同意としました。

【会員の皆様への意見募集】

以上の見直し(案)について、意見・提案のある方は、県支部協まで電話又はFAXを送付して下さい。この見直し(案)は、各地域で開催されるブロック会議での議論を経て、六月の支部代表者会議で最終的に確定されます。会員皆様の御意見を待っています。
(事務局長・長嶺)